



# 富士通のあゆみ

	事業展開	製品展開
<p><b>1935 ~</b></p>  <p>(1935~1961)</p> <p>当時親会社であった富士電機製造(株)のマークを使用。富士電機製造(株)の社名の由来である、古河の「F」とドイツのシーメンス社の「S」を組み合わせたものである。</p> <p>&lt;「富士電機製造(株)」の社名の由来&gt;古河電気工業(株)とドイツのシーメンス社が、発電機・電動機国産化のため、1923年に富士電機製造(株)を設立。社名の由来は、「古河」の「F」と、「シーメンス」(ドイツ語読み)の「S」を取った「Fジ(富士)」から、(日本一の富士山をイメージ)</p>	<p><b>1935年</b> 6月20日 ● 富士電機製造(株)(現 富士電機(株))の電話部所管業務を分離し、富士通信機製造(株)設立。(資本金300万円、社員700人。初代社長に富士電機吉村萬治郎社長が就任)</p>  <p><b>'38年</b> 9月 ● 川崎市中原に新工場竣工(現在の川崎工場所在地)</p>  <p><b>'41年</b> 2月 ● 河津無線電機(株)(現 富士通テレコムネットワークス(株))がグループ会社となる</p> <p><b>'42年</b> 4月 ● 須坂工場開設(電話機の量産工場として開設)</p> <p><b>'44年</b> 11月 ● (株)金岩工作所(現 富士通フロンテック(株))がグループ会社となる</p> <p><b>'46年</b> 7月 ● 販売機関として東京出張所を開設</p> <p><b>'49年</b> 5月 ● 新株式を東京証券取引所再開と同時に上場</p> <p><b>'52年</b> 4月 ● 独シーメンス社との技術提携復活</p> <p><b>'57年</b> 6月 ● 新光電気工業(株)がグループ会社となる</p> <p><b>'59年</b> 11月 ● 小山工場開設(無線通信機器の量産工場として開設)</p>	<p><b>1937年</b> 8月 ● 逓信省の搬送装置指定製造所となる ● 搬送装置第1号製品を南満州鉄道(株)に納入</p> <p><b>'40年</b> ● 日本初の国産自動交換方式T形交換機を奈良局に納入</p> <p><b>'45年</b> 12月 ● 富士形電話機、逓信院より正式採用電話機製造業者に指定される</p>  <p><b>'50年</b> 8月 ● 電話機月産5,000台目標を達成</p> <p><b>'51年</b> 5月 ● 電気計算機の製造開始。東京都庁に統計分類集計機を納入</p> <p><b>'53年</b> 8月 ● 無線通信機器の製造開始(川崎工場)</p>  <p><b>'54年</b> 4月 ● 回路部品の製造開始(川崎工場) 10月 ● 日本初のリレー式自動計算機「FACOM100」完成</p> <p><b>'56年</b> 12月 ● 六甲局にクロスバ交換機第1号機を納入 ● 日本初の工作機械自動制御装置を完成</p> <p><b>'57年</b> 10月 ● パラメトロンを素子とする電子計算機の製作開始</p> <p><b>'58年</b> 9月 ● パラメトロン式電子計算機試作第1号機「FACOM200」完成 10月 ● 日比谷の朝日生命館に日本初の電算機センター開設</p> <p><b>'59年</b> 4月 ● パラメトロン式電子計算機「FACOM212」第1号機を日本電子工業振興協会へ納入</p> 
	<p><b>1960 ~</b></p>  <p>(1962~1971)</p> <p>現社名である「富士通」という名称を用いたマークを制定。コンピュータの製造が本格的にはじまり、社内機構を改革。「通信工業部」と「電子工業部」の二部制から、「通信と電子の」というキャッチフレーズをマークの上に記載。</p>	<p><b>'60年</b> 2月 ● 川崎にトランジスタ工場竣工、量産に入る 12月 ● 大阪証券取引所に上場</p> <p><b>'61年</b> 3月 ● 工業部制を採用、通信工業部、電子工業部を設置(通信機器の需要増加と電子工業の急速な発展に対応するため従来の機構を刷新) 10月 ● 名古屋証券取引所に上場</p> <p><b>'62年</b> 5月 ● 富士通研究所を社内組織として設置 11月 ● 正式英文社名を“FUJITSU LIMITED”に決定</p> <p><b>'64年</b> 8月 ● 石井通信工業(株)(現 (株)富士通マーケティング)がグループ会社となる</p> <p><b>'66年</b> 3月 ● 長野工場開設(電子計算機の専用量産工場として開設) 8月 ● 川崎にIC工場完成、量産開始</p> <p><b>'67年</b> 3月 ● 初の海外駐在員事務所となるニューヨーク駐在員事務所を開設 6月 ● 富士通株式会社に社名変更 9月 ● 会津工場開設(音響機器と半導体部品の量産工場として開設)</p> <p><b>'68年</b> 7月 ● 平山電機商事(株)(現 富士通エレクトロニクス(株))がグループ会社となる ● 当社初の海外現地法人「富士通カリフォルニア(Fujitsu California Inc.)」(現 富士通アメリカ(Fujitsu America, Inc.))設立 8月 ● 神戸工業(株)(現 富士通テン(株))を合併 ● 明石工場開設(神戸工業(株)より承継) 10月 ● 南多摩工場開設(データ通信用端末量産工場として開設) 11月 ● (株)富士通研究所設立(株式会社として分離独立)</p>

	事業展開	製品展開
<p><b>1970～</b></p> <p><b>富士通</b></p> <p>(1972～1988)</p> <p>青色の「平和」、赤色の「情熱」、白色の「純潔」というコンセプトのもとマークを制定。</p>	<p>'71年</p> <p>10月 ● (株)日立製作所と電算機分野で業務提携。3.5世代以降の新機種開発で協調</p> <p>'72年</p> <p>4月 ● 富士電気化学(株) (現 FDK(株)) がグループ会社となる</p> <p>5月 ● 富士通ファナック(株) (現 ファナック(株)) 設立 (計算制御部門を分離独立)</p> <p>10月 ● 富士通テン(株)設立 (ラジオ部門を分離独立)</p> <p>12月 ● 米アムダール社 (AMDAHL CORPORATION) に資本参加</p> <p>'73年</p> <p>7月 ● 富士電機製造(株) (現 富士電機(株)) が松下グループ3社とともに、パナファコム(株)設立</p> <p>'74年</p> <p>7月 ● 機構改革、事業部制を導入</p> <p>● 熊谷工場開設 (熊谷電子(株)より承継)</p> <p>'75年</p> <p>6月 ● 日産コンピュータ(株) (現 (株)富士通ビー・エス・シー) がグループ会社となる</p> <p>'76年</p> <p>1月 ● タケダ理研工業(株) (現 (株)アドバンテスト) に資本参加</p> <p>4月 ● フランクフルト証券取引所に上場</p> <p>8月 ● 沼津工場開設 (大型コンピュータの製造工場)</p> <p>'77年</p> <p>11月 ● 富士通エフ・アイ・ピー(株)を設立</p> <p>'78年</p> <p>4月 ● 独シーメンス社と電算機分野での協力関係確立に合意</p> <p>'79年</p> <p>4月 ● (株)富士通第一システムエンジニアリング (現 (株)富士通システムズ・イースト) 設立 (以降SE会社を各地に展開)</p>	<p>'73年</p> <p>8月 ● 仮想記憶方式採用「FACOM230 "8" シリーズ」発表</p> <p>'74年</p> <p>8月 ● オフィスコンピュータ「FACOM V0」発表。当社初のソフトウェアのアンバンドリング (ソフトとハードの価格分離) を実施</p> <p>9月 ● 日本最大規模の公害監視システムが川崎市で稼働</p> <p>11月 ● (株)日立製作所と共同で汎用コンピュータ「FACOM Mシリーズ」発表 (大型コンピュータの新シリーズ。「M-190」はLSIで構成された世界最大・最高速のコンピュータ)</p>  <p>'76年</p> <p>● ベクトル型スーパーコンピュータ開発</p> <p>'77年</p> <p>1月 ● オフィスコンピュータ「FACOM-V シリーズ」発表</p> <p>5月 ● オンライントランザクション処理基盤「AIM (Advanced Information Manager)」発売</p> <p>● FNA (富士通ネットワークアーキテクチャ) 発表</p> <p>'78年</p> <p>2月 ● 64KビットRAMを世界で初めて製品化</p> <p>'79年</p> <p>4月 ● 富士通日本語情報システム「JEF」発表</p> 

	事業展開	製品展開
<p><b>1980～</b></p> <p><b>FUJITSU</b></p> <p>(1989～)</p> <p>国際化に伴い、現在の英字表記のシンボルマークとなる。「FUJITSU」の中央に位置する「j」「i」の上部のマーク (インフィニティマーク) は、「地球」と「太陽」をシンボライズし、宇宙への広がりや無限の可能性を表現。FUJITSU レッド (赤色) による、チャレンジ、人間的、エキサイティングな企業を象徴。</p>	<p>'80年</p> <p>3月 ● 1979年度の電算機部門の売上で日本IBMを抜き、業界トップに</p> <p>8月 ● 若手工場開設 (会津工場より量産メモリの製造を移管)</p> <p>'81年</p> <p>6月 ● ソフトウェア・サービスビジネスの拡大に対応し、システム本部を新設</p> <p>● 通信、電子の工業部制を廃止。営業部門を一体化</p> <p>● 米カリフォルニア州にサンディエゴ工場開設 (半導体の現地生産を開始)</p> <p>10月 ● ロンドン証券取引所に上場</p> <p>12月 ● 英ICL社と電子計算機の技術援助で提携</p> <p>'83年</p> <p>9月 ● チューリッヒ、バーゼル、ジュネーブの各証券取引所 (現在は、各証券取引所をスイス証券取引所に統合) に上場</p> <p>'84年</p> <p>9月 ● 三重工場開設 (大容量メモリ、大規模ゲートアレイなどの開発試作、量産工場)</p> <p>10月 ● 若松工場開設 (カスタムLSIの量産試作工場) (株)ゼネラル (現 (株)富士通ゼネラル) に資本参加</p> <p>'86年</p> <p>2月 ● 日商岩井(株)と共同出資でパソコン通信会社(株)エヌ・アイ・エフ (現 ニフティ(株)) 設立</p> <p>'87年</p> <p>4月 ● ユーザック電子工業(株)とパナファコム(株)を合併し(株)PFU設立</p>	<p>'80年</p> <p>5月 ● 日本語ワードプロセッサ「OASYS-100」発表</p> <p>6月 ● (株)富士通研究所が超高速半導体素子HEMTの開発に成功</p> <p>8月 ● 110番通信指令システムの1号機を警視庁に納入</p> <p>'81年</p> <p>5月 ● 超大型コンピュータ「FACOM M-380/382」発表 (LSIコンピュータの第2世代機)</p> <p>● パーソナルコンピュータ「FM-8」(世界初64キロビットLSIメモリ搭載)発表</p> <p>10月 ● ビジネス用パーソナルコンピュータ「FACOM9450」発表</p> <p>'82年</p> <p>7月 ● スーパーコンピュータ「FACOM VP-200/100」発表</p> <p>'83年</p> <p>3月 ● 世界初のCMOS256KビットEPROM開発</p> <p>5月 ● 国産初のSQLベースのデータベースをサポートした商用製品「AIM/RDB」発売</p> <p>'84年</p> <p>5月 ● オフィスコンピュータ「FACOM Kシリーズ」発表</p> <p>● 企業情報通信ネットワークシステム「COINS」発表</p> <p>9月 ● 英日・日英自動翻訳システム「ATLAS」発表</p> <p>'85年</p> <p>2月 ● JEFとOASYSを結合し、国語COBOLを開発、発表</p> <p>● 1MビットDRAMを開発</p> <p>4月 ● 富士通VANサービス「FENICS」提供開始</p> <p>11月 ● ECL LSIを採用した世界最高速の超大型汎用コンピュータ「FACOM M-780 モデルグループ」発表</p> <p>'87年</p> <p>1月 ● ビジネスパソコン「FM Rシリーズ」発売</p> <p>5月 ● 「SDAS (エスダス) 総合開発システム」確立</p> <p>7月 ● 人工知能の新体系「KSA知識情報システム」確立</p>    

	事業展開	製品展開
	<p>'89年</p> <p>3月 ● 保守部門の一部を分離独立し、富士通カスタマエンジニアリング㈱(現 ㈱富士通エフサス)設立</p> <p>6月 ● シンボルマークとロゴタイプを一新</p>	<p>'88年</p> <p>3月 ● 富士通ISDNシステムを提供開始</p> <p>8月 ● エンジニアリングワークステーション「Sファミリー」発表</p> <p>12月 ● スーパーコンピュータ「VP2000シリーズ」発表</p> <p>● デジタル電子交換機「FETEX-150」がシンガポールで稼働(世界初のISDN商用サービス開始)</p> <p>'89年</p> <p>2月 ● 32ビット・ハイパーメディア・パソコン「FM TOWNS」発表</p> 
1990～	<p>'90年</p> <p>11月 ● 英ICL社へ80%資本参加</p> <p>'93年</p> <p>4月 ● 米AMD社とフラッシュメモリ製造の合弁会社富士通エイ・エム・ディ・セミコンダクタ㈱(2003年7月にFASL LLC, 現 米サイプレスセミコンダクタ社)設立</p> <p>'95年</p> <p>12月 ● アウトソーシングサービス拠点、富士通館林システムセンター(現 館林データセンター)開設</p> <p>'96年</p> <p>2月 ● 米向けパソコンビジネス会社富士通PCコーポレーション(Fujitsu PC Corporation)(のちFujitsu Computer Systems Corp.)設立</p> <p>'97年</p> <p>3月 ● アジアでのソリューションビジネス強化に向け、統括会社富士通アジア(Fujitsu Asia Pte. Ltd.)設立</p> <p>5月 ● IBMと富士通、米国仲裁協会(AAA)における仲裁終了に合意</p> <p>9月 ● 米アムダール社(AMDAHL CORPORATION)を100%子会社化</p> <p>10月 ● 化合物半導体事業の開発・製造・販売を富士通カンタムデバイス㈱に集約</p> <p>11月 ● アウトソーシングサービス拠点、富士通明石システムセンター開設(現 明石データセンター)(東西2大センターによる体制を確立)</p> <p>'98年</p> <p>10月 ● 英ICL社を100%子会社化</p> <p>'99年</p> <p>2月 ● FCRAMの共同開発で㈱東芝と提携</p> <p>3月 ● ニフティ㈱を100%子会社化</p> <p>4月 ● ㈱日立製作所とプラズマ・ディスプレイ・パネル事業の合弁会社富士通日立プラズマディスプレイ㈱設立</p> <p>6月 ● 国内初、環境会計に対する第三者機関の認証取得</p> <p>7月 ● 事業戦略“Everything on the Internet”を発表</p> <p>10月 ● 独シーメンス社との合併により富士通・シーメンス・コンピュータズ(Fujitsu Siemens Computers (Holding) B.V.)設立(現 Fujitsu Technology Solutions B.V.)</p>	<p>'90年</p> <p>8月 ● 世界初のUNIX System V Release 4準拠のメインフレームOS「LUXP/M」発表</p> <p>9月 ● 世界最高速の超大型汎用コンピュータ「M-1800モデルグループ」発表</p>  <p>'91年</p> <p>4月 ● 当社初の携帯電話「ムーバF」発売</p> <p>5月 ● UNIXコンピュータ「DS/90 7000シリーズ」発表</p> <p>● 1990年代の情報システム構築新コンセプト「MESSAGE 90s」発表</p>  <p>'92年</p> <p>6月 ● 情報・通信システムの総合サービス体系「PROPOSE」発表</p> <p>9月 ● 世界最高速のベクトルパラレル型スーパーコンピュータ「VPP500シリーズ」発表</p> <p>'93年</p> <p>1月 ● 米国の電話会社よりB-ISDN用交換機のサプライヤとして選定され、世界で初めて商用ATM交換機「FETEX-150」を受注</p> <p>10月 ● Windows時代に対応する国際標準機パソコン「FMVシリーズ」発表</p>  <p>'94年</p> <p>6月 ● 商用インターネットサービス「InfoWeb」提供開始(1999年10月に@niftyに統合)</p> <p>10月 ● ソフトを満載したオールインワンデスクトップパソコン「FMV-DESKPOWER」発売</p> <p>'95年</p> <p>2月 ● 世界最高速のデータ転送を実現した「アレイディスクサブシステム(F6495)」発表</p> <p>● B5ファイルサイズの高性能オールインワンノートブックパソコン「FMV-BIBLO」発売</p> <p>3月 ● 新サービス体系「C/S(クライアントサーバ)デスクトップサービス」発表</p> <p>5月 ● 世界最高速のCMOS汎用プロセッサと並列処理技術を採用した新グローバルサーバ「GS8000シリーズ」発表</p> <p>10月 ● マルチメディア時代に対応した新データベース「SymfoWARE」発表</p>  <p>'96年</p> <p>1月 ● グローバルサーバ「GS8600シリーズ」発表</p> <p>12月 ● パソコンサーバシリーズ「GRANPOWER5000シリーズ」発表</p> <p>'97年</p> <p>5月 ● ネットワークコンピューティング対応の新ビジネスサーバ「GRANPOWER6000シリーズ」発表</p> <p>7月 ● 世界最小・最軽量の携帯電話「デジタル・ムーバF203 HYPER」発売</p> <p>11月 ● ネットワークコンピューティング体系「SOLUTIONVISION」確立</p>  <p>'98年</p> <p>1月 ● 世界最高速CMOS大型汎用機「GS8800モデルグループ」発表</p> <p>6月 ● 分散システムの統合運用管理ソフトウェア「Systemwalker」発表</p> <p>7月 ● NAND型フラッシュメモリ開発</p> <p>11月 ● 基本ソフトウェアにSolarisを採用した自社製チップ搭載UNIXサーバ「GP7000Fファミリー」発表</p> <p>● ソニー㈱と1.3GBの3.5型光磁気ディスクシステム「GIGAMO」の共同開発を発表</p> <p>'99年</p> <p>2月 ● iモードサービス対応1号携帯電話「デジタルムーバF501i HYPER」発売</p> <p>10月 ● 世界初、1テラビット光波長多重の1万キロメートル伝送実験に成功</p> <p>● 銅配線CMOS汎用プロセッサ搭載の大型汎用機「GS8900モデルグループ」発表</p> <p>12月 ● 日本初、カラー液晶搭載携帯電話「デジタルムーバF502i HYPER」発売</p>

	事業展開	製品展開
2000～	<p><b>'00年</b></p> <p>9月 ● 日産デジタルプロセス(株) (現 デジタルプロセス(株)) を100%子会社化</p> <p>12月 ● 国内初の電子行政モデルルーム「netCommunity」開設</p> <p><b>'02年</b></p> <p>3月 ● 取締役会改革、執行役制およびビジネスグループ制の導入を表明 ● あきる野テクノロジセンターにて、世界で初めて90ナノメートルLSI量産試作を開始</p> <p>4月 ● (株)富士通ITプロダクツ設立 ● 英ICL社を富士通サービス (Fujitsu Services Holdings PLC)、米DMR社を富士通コンサルティング (Fujitsu Consulting Holdings, Inc. (現 Fujitsu America, Inc.))、米アムダール社を富士通ITホールディングスへ社名変更</p> <p>6月 ● 米マイクロソフト社とグローバル提携を強化 ● SoCソリューションを核とした半導体事業分野について(株)東芝と提携</p> <p>10月 ● 大規模基幹システムへの適用を目指したLinuxによる事業展開を開始</p> <p><b>'03年</b></p> <p>1月 ● 米インテル社とミッションクリティカル領域向け新サーバの開発で協業 ● 液晶ディスプレイ分野で台湾AUO社と提携</p> <p>5月 ● 米レッドハット社とミッションクリティカルなLinuxソリューション分野でグローバル提携</p> <p>7月 ● 米AMD社とフラッシュメモリ事業の合弁会社FASL LLC (現 米サイプレス セミコンダクタ社) 設立</p> <p>10月 ● 富士通ITホールディングスなどの北米の子会社を統合し、富士通コンピュータシステムズ (Fujitsu Computer Systems Corporation) 設立</p> <p>11月 ● ソリューションビジネスの戦略拠点として富士通ソリューションスクエアを開設</p> <p><b>'04年</b></p> <p>4月 ● 全社一括で環境認証ISO14001を取得 ● 住友電気工業(株)と富士通インタムデバイス(株)を統合し、ユーティリティデバイス(株)を設立</p> <p>5月 ● 富士通サポートアンドサービス(株) (現 (株)富士通エフサス) を100%子会社化</p> <p>6月 ● マーケット別のビジネスグループ体制に組織再編。営業とSEの一体化 ● 米マイクロソフト社とミッションクリティカル領域のオープンスタンダードプラットフォーム確立に向けてグローバル提携 ● 米サン・マイクロシステムズ社と提携関係を拡大。次期SPARC/Solarisサーバの開発で協業</p> <p>7月 ● TDK(株)と磁気ディスク装置ヘッド分野で提携、合弁会社設立</p> <p>8月 ● 最先端SoC設計環境構築に向け、日本ケイデンス・デザイン・システムズ社とグローバルなパートナー契約を締結</p> <p>12月 ● 米シスコ社とルータ・スイッチ分野で戦略提携</p>	<p><b>'00年</b></p> <p>5月 ● グローバルビジネスの展開に向けたサーバ戦略を発表「PRIMERGY」、「PRIMEPOWER」にブランドを全世界で統一</p> <p>9月 ● 世界初の高速64kbpsワイヤレスデータ通信機能を標準内蔵したモバイルパソコン「FMV-BIBLO LOOX (ルークス)」発売 </p> <p><b>'01年</b></p> <p>11月 ● ユニバーサルデザイン採用の携帯電話「ムーバ F671i (らくらくホンII)」発売 </p> <p><b>'02年</b></p> <p>2月 ● ストレージシステム製品群の名称をグローバルブランドとして「ETERNUS」に統一 ● 世界最高速の大型汎用コンピュータ「GS21 600モデルグループ」発売 ● プラットフォームコンセプトである「TRIOLE」確立</p> <p>6月 ● ミドルウェア商品のブランドイメージ統一 <b>Interstage</b> <b>Symfaware</b> <b>Systemwalker</b> ● 世界初、環境負荷の少ない植物系素材プラスチック部品をノートパソコン「FMV-BIBLO」に採用</p> <p>8月 ● スカラ型スパコン「PRIMEPOWER HPC2500」発売</p> <p>11月 ● ペン入力のタブレットPC「FMV-STYLISTIC」発売 ● 自社回収したパソコンの筐体樹脂をノートパソコンに再生利用</p> <p><b>'03年</b></p> <p>1月 ● 第3世代携帯電話端末市場本格参入「FOMA F2051」発売</p> <p>5月 ● グローバルサーバ「GS21」ラインナップ完成</p> <p>6月 ● ストラクチャードASIC「AccelArray」発売</p> <p>7月 ● 90ナノCMOSテクノロジーのLSI発売 ● 日本初、指紋センサー搭載の携帯電話「ムーバ F505i」発売 </p> <p>11月 ● 超並列シミュレーションサーバ「BioServer」の実証実験開始 ● デジタルAV機器向け「FR-Vソリューション・パッケージ」提供開始</p> <p>12月 ● 「オンデマンドアウトソーシングサービス」提供開始 ● 総合システム開発体系「SDAS (エスダス)」刷新</p> <p><b>'04年</b></p> <p>1月 ● 大画面22型ワイド液晶を採用したシアタースタイルPC「FMV-DESKPOWER Tシリーズ」発売 </p> <p>3月 ● 米ラティス社から最先端半導体製品の製造を受託</p> <p>6月 ● 世界初UNIXサーバに90ナノメートル半導体技術を採用した「PRIMEPOWER」発売 </p> <p>8月 ● 世界初のiモードFeliCa対応携帯電話「FOMA F900iC」発売 </p> <p>9月 ● 大画面17型液晶を搭載したエンターテインメントノートブックPC「FMV-BIBLO NXシリーズ」発売</p> <p>10月 ● 世界最大容量の1メガビットFRAM発売</p>
	2005～	<p><b>'05年</b></p> <p>3月 ● 富士通日立プラズマディスプレイ(株)株式を(株)日立製作所へ一部譲渡する契約を締結</p> <p>4月 ● 液晶デバイス事業をシャープ(株)へ譲渡する契約を締結 ● 三重工場内で300mmウェーハ対応ロジックLSI工場を稼働</p> <p>5月 ● 国内連結子会社でISO14001の一括認証を取得</p>



	事業展開	製品展開
	<p><b>'06年</b></p> <p>8月 ● 品質保証部門の一部と、富士通分析ラボ(株)を再編し富士通クオリティ・ラボ(株)を設立</p> <p>9月 ● アウトソーシングサービスでITサービスマネジメントシステム国際認証規格「ISO20000」取得</p> <p>10月 ● 独SAP AGとサービス分野でグローバル協業強化</p>	<p><b>'06年</b></p> <p>4月 ● パソコンで初めて「Blu-ray Discドライブ」を搭載した「FMV-DESKPOWERシリーズ」発売</p> <p>5月 ● 中堅企業向け統合ERPソリューション「GLOVIA smart」提供開始</p> <p>10月 ● インフラ最適化システムモデルの確立</p> <p>12月 ● ひまし油を原料とした植物性プラスチックを開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 世界初、300ギガバイトのシリアルATA対応2.5型HDD発売</li> <li>● 世界最小の設置面積を実現したコンパクトPCサーバ「PRIMERGY TX120」発売</li> </ul>
	<p><b>'07年</b></p> <p>3月 ● コンサルティング事業本部と(株)富士通総研を統合、コンサルティング機能強化</p> <p>4月 ● LSI前工程製造会社、富士通セミコンダクターテクノロジー(株)事業開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 三重工場内で300mmウェーハ対応ロジックLSI工場第2棟稼働【三重工場300mm第2棟】</li> </ul> <p>5月 ● 独SAP AGとグローバル・テクノロジー・パートナー契約グローバル・サービス・パートナー契約に続き、グローバル・ホスティング・パートナー契約を締結</p> <p>6月 ● (株)富士通ミッションクリティカルシステムズ設立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 流通業SEを(株)富士通システムソリューションズ(現(株)富士通システムズ・イースト)に統合・再編</li> </ul> <p>8月 ● 独シーメンス社と手のひら静脈認証ビジネスで協業</p> <p>9月 ● 富士通コンサルティング (Fujitsu Consulting Holdings, Inc. (現 Fujitsu America, Inc.)) が米国SaaSビジネス企業OKERE社を買収</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 次世代スーパーコンピュータシステム(文部科学省が進める次世代スーパーコンピュータ・プロジェクトの一環)において、日本電気(株)、(株)日立製作所との共同開発が決定</li> </ul> <p>10月 ● 富士通アドバンステクノロジー(株)と富士通デザイン(株)を設立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 富士通ニュージーランド (Fujitsu New Zealand Limited) がニュージーランドのITサービス企業Infinity Solutions社の買収を発表</li> <li>● 電子デバイス事業の営業部門と富士通デバイス(株)の営業部門を統合し、富士通エレクトロニクス(株)設立</li> <li>● 富士通コンサルティング (Fujitsu Consulting Holdings, Inc. (現 Fujitsu America, Inc.)) がカナダのITコンサル企業Promaintech Novaxa社を買収</li> </ul> <p>11月 ● メインフレーム系基盤ソフトウェアの開発・保守部門を会社分割し、富士通ミッションクリティカルソフトウェア(株)設立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 富士通サービス (Fujitsu Services Holdings PLC) がスウェーデンのITサービス企業Mandator社の株式公開買付けを実施</li> </ul> <p>12月 ● 沖電気工業(株)と次世代ATMのソフトウェア開発提携を発表</p>	<p><b>'07年</b></p> <p>1月 ● 高密度HDD向けアルミナナノホール列の形成に成功</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 世界最薄防水携帯電話「FOMA F703」発売</li> </ul> <p>4月 ● 米サン・マイクロシステムズ社との共同開発UNIXサーバ「SPARC Enterprise」発売</p> <p>5月 ● 世界最小の超小型軽量コンパクト型PC「FMV-LIFEBOOK Uシリーズ」発売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● マルチキャリアネットワークサービス「FENICS II」提供開始</li> <li>● 「らくらくホンシリーズ」の累計販売台数が1,000万台を突破</li> <li>● SOAをベースとした新世代ERP体系「ビジネス統合基盤」を確立</li> </ul> <p>8月 ● 富士通サービス (Fujitsu Services Holdings PLC) が英Reuters社より大型アウトソーシング契約を獲得</p> <p>9月 ● 世界初、マウス型手のひら静脈認証装置を発売</p>
	<p><b>'08年</b></p> <p>1月 ● 携帯電話ビジネスの製造・修理部門を会社分割により分社し、富士通モバイルフォンプロダクツ(株) (現 富士通周辺機(株)) 設立</p> <p>2月 ● 富士通コンサルティング (Fujitsu Consulting Holdings, Inc. (現 Fujitsu America, Inc.)) がカナダの地理情報科学を専門とするITコンサル企業Inteltec Geomatics社を買収</p> <p>3月 ● LSI事業を会社分割により分社し、富士通マイクロエレクトロニクス(株) (現 富士通セミコンダクター(株)) を設立</p> <p>4月 ● 富士通グループの保守サービス事業が国内で初めて事業継続マネジメントシステム規格「BS25999」の認証を取得</p> <p>6月 ● SIプロジェクトの第三者品質検証を行う(株)富士通アドバンスクオリティ設立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● PLMソリューションの開発・販売・サポート体制を強化。CAD製品開発をデジタルプロセス(株)に集結</li> </ul> <p>7月 ● フォトニクスネットワーク事業の製造部門および国内向け開発部門を富士通アクセス(株)と統合し、富士通テレコムネットワークス(株)を設立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中期環境ビジョン「Green Policy 2020」策定</li> </ul> <p>10月 ● (株)FFCを完全子会社化し、(株)富士通アドバンストエンジニアリングに社名変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ドコモ、ルネサス、シャープとの4者でHSUPA対応携帯電話プラットフォームを共同開発</li> </ul>	<p><b>'08年</b></p> <p>1月 ● 世界初、航空分野向け64キロバイトの大容量FRAMを搭載したRFIDタグを開発</p> <p>2月 ● 世界最小サイズの一体型モバイルWiMAX基地局装置「BroadOne WX300」を世界で発売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● SaaSサービスを本格的に提供開始</li> </ul> <p>3月 ● 世界初、カーボンナノチューブとグラフェンの自己組織形成に成功</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Windowsケータイ FOMA「F1100」発売</li> </ul> <p>4月 ● 海外でそのまま使える「らくらくホン プレミアム」発売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 世界初、暗号化方式AES 256ビットに対応した320ギガバイト2.5型HDD発売</li> </ul> <p>5月 ● 安心安全ソリューション「SafetyValue」提供開始</p> <p>7月 ● 富士通サービス (Fujitsu Services Holdings PLC) がアステラス製薬欧州子会社 (Astellas Pharma Europe Ltd.) から5年間のITアウトソーシング契約を獲得</p> <p>10月 ● 世界初、車両全周囲の見たい所を見やすくリアルタイムで表示する映像処理技術を開発</p> <p>11月 ● シニアやパソコン初心者向けの「FMVらくらくパソコン」発売</p>



	事業展開	製品展開
	<p><b>'09年</b></p> <p>1月 ● 富士通マイクロエレクトロニクス(株) (現 富士通セミコンダクター(株)) の前工程工場の製造体制を再編</p> <p>3月 ● FALがオーストラリアのITサービス企業KAZ社を買収、オーストラリアIT市場で売上第3位に</p> <p>4月 ● 独シーメンス社から富士通シーメンスコンピューターズ (Fujitsu Siemens Computers (Holding) B.V.) の株式を取得し完全子会社化。富士通テクノロジーソリューションズ (Fujitsu Technology Solutions B.V.) 設立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 北米三社を統合し、Fujitsu America, Inc. 設立</li> <li>● フロントテクノロジー事業を富士通フロンテック(株)へ一元化</li> <li>● オーストラリアのSAPコンサルティング会社 Supply Chain Consulting社を買収</li> <li>● 富士通マイクロエレクトロニクス(株) (現 富士通セミコンダクター(株)) が台湾セミコンダクター・マニュファクチャリング・カンパニー (TSMC) 社に40nm世代のロジックIC製造を委託</li> </ul> <p>5月 ● 持分法適用関連会社FDK(株)を連結子会社化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● セールスフォース・ドットコムとCRM分野のSaaS事業で販売提携</li> </ul> <p>7月 ● ㈱山形富士通のHDDメディア事業を昭和電工(株)に譲渡</p> <p>8月 ● ㈱富士通ビジネスシステム (現 ㈱富士通マーケティング) を完全子会社化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 富士通マイクロエレクトロニクス(株) (現 富士通セミコンダクター(株)) がTSMCと28nm世代のロジックICの製造および開発で協力</li> </ul> <p>10月 ● HDDドライブ事業を㈱東芝に譲渡</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 富士通情報系統 (深圳) 有限公司を設立</li> </ul> <p>11月 ● 次世代サービスの新拠点、館林システムセンター (現 館林データセンター) 新棟をオープン</p>	<p><b>'09年</b></p> <p>1月 ● 「環境経営ソリューション」提供開始</p> <p>4月 ● クラウドサービス基盤「Trusted-Service Platform」提供開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● メインフレーム「GS21」の「1600/1400モデルグループ」発売</li> </ul> <p>5月 ● 業界最高クラスとなる18枚搭載の大規模ブレードサーバ「PRIMERGY BX900」発売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 世界最速のCPU「SPARC64 VII fx」(128ギガフロップス) を公開</li> </ul> <p>6月 ● 「ETERNUS」のグローバル展開本格化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 世界初、電源装置向け窒化ガリウムHEMTを開発</li> <li>● Fujitsu America, Inc. が北米初の本格的アウトソーシング商談Alliance Data社のインフラサービスを受注</li> </ul> <p>7月 ● 次世代スーパーコンピュータの新システム構成を決定</p> <p>10月 ● LTE端末向けベースバンドチップと通信カードを開発</p> <p>11月 ● 世界初、大基板全面にグラフェントランジスタを低温で直接形成する技術を開発</p> <p>12月 ● クラウドサービス基盤を活用し、エンドユーザーのICT機器を支援する「ワークプレイス-LCMサービス」提供開始</p>
	<p><b>事業展開</b></p>	<p><b>製品展開</b></p>
2010～	<p><b>'10年</b></p> <p>1月 ● 富士通とシンガポール科学技術庁がベタスケールコンピューティングで共同研究</p> <p>3月 ● スマートグリッド関連事業について富士通と富士電機(株)で業務提携に向けた覚書を締結</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ブランドプロミス「shaping tomorrow with you」を制定</li> </ul> <p>4月 ● 富士通マイクロエレクトロニクス(株)を富士通セミコンダクター(株)に商号変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ㈱PFUの株式交換による完全子会社化</li> </ul> <p>5月 ● 富士通とセールスフォース・ドットコムがグローバルで包括的協業</p> <p>10月 ● ㈱富士通ビジネスシステムを、㈱富士通マーケティングに商号変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 携帯電話事業を㈱東芝と統合</li> </ul> <p>12月 ● ネットワーク製品の製造部門を再編・統合によりネットワーク事業の体質強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ㈱東芝による東芝ストレージデバイス(株)の完全子会社化</li> </ul>	<p><b>'10年</b></p> <p>1月 ● 超軽量約495gのReal Pocket size PC「L00X Uシリーズ」を発売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ㈱東京証券取引所様の次世代株式売買システム「arrowhead」稼働</li> </ul> <p>2月 ● 富士通サービスが英国労働年金省様より英国最大規模のデスクトップアウトソーシングサービスを受注</p> <p>3月 ● クラウドコンピューティング向け新サーバプラットフォーム「PRIMERGY CX1000」発売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 世界初のセパレートケータイ「docomo PRIME series™ F-04B」発売</li> </ul>  <p>4月 ● プライベートクラウド対応製品群を発売</p> <p>5月 ● お客様システムをクラウド環境に移行するサービスを提供</p> <p>6月 ● 世界初、「見る」「変える」「作る」の「3つの3D体験」がデキル、3Dパソコン発売</p> <p>9月 ● 次世代スーパーコンピュータ「京」出荷開始</p> <p>10月 ● データセンターのICTインフラをネットワーク経由で利用できるパブリック型クラウドサービス「オンデマンド仮想システムサービス」提供</p> <p>12月 ● docomo向けスマートフォン「REGZA Phone T-01C」発売</p>

	事業展開	製品展開
	<p><b>'11年</b></p> <p>5月 ● 京都大学と富士通が共同でスマートコンセン トを利用した省エネの研究によるエネルギー マネジメントの実証実験を開始</p> <p>6月 ● 京速コンピュータ「京」が8.162ペタ フロップスの性能 を達成し世界一に </p> <p>● 東京大学 先端科学技術研究センターと世界に 先駆けて実用化を目指す新しいIT創業技術の 共同研究開始</p> <p>● 富士通とSAS Institute Japan(株)、情報分析の 分野で協業</p> <p>10月 ● (株)富士通マーケティングの民需向けビジネス 強化</p> <p>11月 ● 京速コンピュータ「京」が2期連続で世界一を 獲得</p>	<p><b>'11年</b></p> <p>2月 ● 初のau向けスマートフォン「REGZA Phone IS04」発売 ● タッチ入力式スレート型PC「STYLISTIC Q550シリーズ」 発売</p> <p>3月 ● 「PRIMERGYシリーズ」の累計販売台数100万台を達成</p> <p>5月 ● 富士通オーストラリアが、オーストラリア全土光ブロード バンド網展開プロジェクトを受注</p> <p>6月 ● (株)東京証券取引所に採用されたインメモリデータ管理 ソフトウェア「Primesoft Server」発売 ● パブリック型クラウドサービス「FGCP/S5」を6カ国で展開 ● プライベートクラウド統合製品「Cloud Ready Blocks」発売 ● 位置情報を活用した新しいサービス「SPATIOWL」提供開始 ● 電子書籍サービス「BooksV」提供開始</p> <p>7月 ● 手のひらサイズの世界最小パソコン 「Windows® 7ケータイ F-07C」発売 </p> <p>8月 ● 日本初、Windows® Phone 7.5搭載 「Windows® Phone IS12T」発売 ● 世界で初めてビッグデータ活用のためのクラウド基盤 データ活用基盤サービスを開発</p> <p>9月 ● 「らくらくホンシリーズ」の累計販売台数2,000万台達成</p> <p>10月 ● 次世代ものづくり環境「エンジニアリングクラウド」提 供開始 ● docomo向けタブレット端末「ARROWS Tab LTE F-01D」発売 </p> <p>11月 ● スーパーコンピュータ「PRIMEHPC FX10」発売 </p> <p>● 東京大学情報基盤センター様より スーパーコンピュータシステムを受注</p> <p>● イオン直営農場に富士通のクラウドを活用したICTシス テムを導入し、実証実験を開始</p> <p>12月 ● Fujitsu America Inc. が米国保険会社 Blue Cross and Blue Shield of North Carolina様よりICTインフラサービスを受注</p>
	<p><b>'12年</b></p> <p>1月 ● AT&amp;T様のネットワーク装置のドメインサブライ ヤーに選定される</p> <p>2月 ● カナダのITサービスプロバイダー Technology Management Corporationを買収 ● インフォテリアとともに、法人向けスマートデ バイスを活用したサービス分野で協業を開始</p> <p>4月 ● 地域SE新会社(株)富士通システムズ・イースト、 (株)富士通システムズ・ウエストを発足 ● 富士通東芝モバイルコミュニケーションズ(株) (現 富士通モバイルコミュニケーションズ(株)) を完全子会社化 ● 中国広東省管轄政府系企業と共同で、富士通中 国華南データセンターを開設 ● 会津若松市、東北電力(株)との3者で、会津若松 地域におけるスマートコミュニティの実現に 向けた事業計画策定を開始</p> <p>8月 ● (株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ、日本電気(株)、富 士通セミコンダクター(株)との4社で、アクセス ネットワークテクノロジー株式会社において、通 信プラットフォーム製品等の開発・販売の合 弁事業を開始 ● 業界初、自社回収したCD/DVDをノートパソコン に再生利用開始 ● 富士通グループが世界で最初の事業継続マネ ジメントシステムの国際規格「ISO22301」の 第三者認証を取得</p> <p>10月 ● 富士通セミコンダクター(株)の岩手工場を(株)デン ソーへ譲渡</p> <p>11月 ● 複数企業の情報システム部門に、ITマネジメ ントのアウトソーシングサービスを提供する (株)ITマネジメントパートナーズ設立</p> <p>12月 ● 三井物産(株)とスマートコミュニティ事業で合 弁会社フューチャーシティソリューションズ (株)設立</p>	<p><b>'12年</b></p> <p>1月 ● ビッグデータ活用のためのクラウドサービス「データ 活用基盤サービス」提供開始 ● 個人向けタブレット端末「ARROWS Tab Wi-Fi」発売</p> <p>2月 ● 新グローバルブランド国内第1弾、デスクトップ型シン クライアント「FUTRO S900」発売 ● 東北大学と高精度三次元津波シミュレーションの共同研究を開始 ● 世界初、声の高さと大きさを基に過信状態を検出する技 術を開発(振り込め詐欺対策への応用可)</p> <p>5月 ● ビッグデータ活用を支援するソフトウェア群を体系化し発売 ● 製造で培った富士通グループにおける長年のノウハウ、 ツールを提供するコンセプト「ものづくり革新隊」発表 ● 個人ユーザ向け富士通パソコン活用の新コンセプト「マ イクラウド」発表</p> <p>6月 ● クラウドを活用したエネルギーマネジメントシステム 「Enetune」提供開始 ● 次世代暗号であるペアリング暗号で、278桁長の暗号解 読に成功し、世界記録を達成 ● 台湾中央気象局様よりスーパーコンピュータシステムを受注</p> <p>7月 ● 初のソフトバンク向けスマートフォン「ARROWS A SoftBank101F」発売</p> <p>8月 ● 「らくらくスマートフォン」発売  ● キーボード着脱可能なハイブリッドタブレット 「STYLISTIC Q702/F」発売</p> <p>10月 ● 食・農クラウド「Akisai」提供開始</p> <p>11月 ● 女性向けパソコン「Floral Kiss」発売 ● 愛犬歩数計「わんだんと」を活用したクラウ ドサービス提供開始 </p> <p>12月 ● カナダ中西部にデータセンター新設 ● ビッグデータサービスにおいてセールスフォー ス・ドットコム「Force.com」と連携 ● 垂直統合プラットフォーム「Dynamic Integrated Systems」 の第一弾としてデータベースシステム「FUJITSU Integrated System HA Database Ready」発売 ● 大和総研、KDDIとミャンマー中央銀行へクラウド型コン ピュータ環境を導入</p>

	事業展開	製品展開
	<p><b>'13年</b></p> <p>2月 ● インサイドセールス部門を分社化し、富士通ISサービス㈱設立</p> <p>● システムLSI事業でのファブレス新会社設立や三重工場300mmラインの新ファウンドリ会社への移管などを含む半導体事業の再編と方針を発表</p> <p>4月 ● フランスのクラウドサービス事業者RunMyProcess社を買収</p> <p>● 富士通セミコンダクター㈱のマイコン・アナログ事業をスパンション・グループに譲渡</p> <p>10月 ● 社会インフラ系SE会社を再編・統合し、(株)富士通ミッションクリティカルシステムズ設立</p> <p><b>'14年</b></p> <p>2月 ● 川崎市とICT環境の充実や次世代育成などの分野における連携・協力を通じた持続的なまちづくりを目指し包括協定を締結</p> <p>3月 ● EMEA、アメリカ、アジア、オセアニア、日本の5リージョン体制に再編し、グローバルデリバリー体制を確立</p> <p>● 富士通国内グループ200社、11万人のコミュニケーション基盤構築を完了</p> <p>4月 ● モバイルフォン端末の製造を富士通周辺機㈱に統合</p> <p>5月 ● 会津若松Akisaiやさい工場産「キレイヤサイ」を販売開始</p> <p>● スーパーコンピュータの高次元接続技術が「恩賜発明賞」受賞</p> <p>7月 ● システムLSI事業の統合会社の設立に関する正式契約を締結</p> <p>● 富士通セミコンダクター㈱とオン・セミコンダクター社が戦略的パートナーシップを締結</p> <p>● 高知県と観光分野や地産外商分野などの産業活性化を通じ新たな市場形成を目指しパートナーズ協定を締結</p> <p>● パナソニックITソリューションズ㈱の株式譲受およびパナソニックグループ向け情報システム関連業務のアウトソーシング開始</p> <p>8月 ● 富士通セミコンダクター㈱のファウンドリ新会社にUMC社が資本参加</p>	<p><b>'13年</b></p> <p>1月 ● UNIXサーバ「SPARC M10」発売</p> <p>● 高齢者ケアクラウドの第一弾として、在宅医療・介護サービス「Fujitsu Intelligent Society Solution 往診先生」提供開始</p> <p>● ソーシャルメディアデータを分析支援するサービス「FUJITSU DataPlazaソーシャルメディア分析ツール」提供開始</p> <p>3月 ● サウジアラビア工業用地公団と環境管理システムの構築と運用に関する契約締結</p> <p>● 大型電波望遠鏡「アルマ」のスーパーコンピュータが稼働</p> <p>4月 ● 全社ビジョン「Fujitsu Technology and Service Vision」策定</p> <p>● パナソニックとスマート家電とクラウド技術を使った共同実証実験を開始</p> <p>5月 ● 会津若松地域におけるスマートコミュニティの事業化に着手</p> <p>● SDNのアーキテクチャー「FUJITSU Intelligent Networking and Computing Architecture」確立</p> <p>● 沼津工場内に「Akisai農場」開設</p> <p>● クラウド製品・サービス群を「FUJITSU Cloud Initiative」として体系化</p> <p>● (株)電通とビッグデータを活用したマーケティング領域の事業で協業</p> <p>6月 ● フランステレコム (Orange) と欧州シニア市場に富士通製スマートフォンを販売</p> <p>● ビッグデータ製品・サービス群を「FUJITSU Big Data Initiative」として体系化</p> <p>8月 ● モバイル製品・サービス群を「FUJITSU Mobile Initiative」として体系化</p> <p>10月 ● 位置情報を活用したクラウドサービス「SPATIOWL」をパッケージ化し、海外で提供</p> <p>● 日本の製造業を支援する「ものづくりソリューション」を体系化</p> <p>● お客様に最適なビッグデータ活用を提案する、10種のオフアリングを提供</p> <p>11月 ● 世界初、スマートメーター向け通信技術が国際標準化推進団体の承認を取得</p> <p>● 「明石システムセンター」に新棟を開設</p> <p>12月 ● カナダ プリティッシュ・コロンビア州教育省様より、児童・生徒情報システム「ConnectEdBC」の構築・運用管理を受注</p> <p><b>'14年</b></p> <p>1月 ● 従来比3倍3,000原子規模のナノデバイス・シミュレーションに成功</p> <p>● 暗号化したまま検索可能な秘匿検索技術を開発</p> <p>● お客様・社会の安心安全を支える情報セキュリティ製品・サービス群を「FUJITSU Security Initiative」として新たに体系化</p> <p>2月 ● 大人世代向けパソコン「GRANNOTE」新発売</p> <p>● タッチとジェスチャーで作業現場を支援するグローブ型ウェアラブルデバイスを開発</p> <p>● 感触が得られるタッチパネル搭載のタブレットを試作</p> <p>3月 ● 「デジタルマーケティングソリューション」の製品・サービスを強化</p> <p>● 次世代のエクサスケールスパソコンに向けたプログラム高速化をビッグデータ分析で実現する技術を九州先端科学技術研究所と開発</p> <p>4月 ● 新プロセス搭載「GS21シリーズ」の新モデル発売</p> <p>● JAXA様がスーパーコンピュータシステムを刷新</p> <p>● 処理性能を最大2.5倍に向上した基幹IAサーバ「PRIMEQUEST」新シリーズを販売開始</p> <p>● スマートフォン史上最高レベルの日本語入力システム「Super ATOK ULTIAS」を(株)ジャストシステムと共同開発</p> <p>5月 ● 会津若松Akisaiやさい工場産「キレイヤサイ」を販売開始</p> <p>● SDNによる広域ネットワーク向け仮想化製品を提供</p> <p>● エアバス様の航空機部品の正確なトレーサビリティを、富士通のRFID技術で実現する「RFID Integrated Label」商談を獲得</p> <p>● OpenStackに対応したプライベートクラウド基盤製品群を強化</p> <p>7月 ● 詳細な走行挙動がわかる商車用プローブデータ・サービスを提供</p> <p>8月 ● 東京大学先端科学技術研究センター・興和㈱と共同で、IT創業により、がんを標的とする新規活性化化合物の創出に成功</p>



	事業展開	製品展開
	<p><b>'14年</b></p> <p>9月 ● ワーク・ライフスタイルを創出する場 HAB-YU platform を開設 ● インドに Fujitsu HPC Competency Center を開設 ● 九州大学と数理技術に基づく社会システムデザインに関する共同研究部門を開設</p> <p>10月 ● ミドクラ社とグローバルでのクラウド事業の共同展開を視野に業務提携を強化 ● シンガポール科学技術庁、Singapore Management University の3者で先端研究組織を設立</p> <p>12月 ● 三重富士通セミコンダクター(株)、会津富士通セミコンダクターウェアソリューション(株)、会津富士通セミコンダクターマニファクチャリング(株)、会津富士通セミコンダクター(株)が事業開始 ● 米国 TechShop とメイカムーブメントの推進に向けて協業 ● 健康長寿社会の実現に向け、高度医療研究機関との共同研究に関する協定を締結</p> <p><b>'15年</b></p> <p>2月 ● 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のゴールドパートナーに決定</p> <p>3月 ● システムLSI事業の統合新会社(株)ソシオネクスト 事業開始 ● いすゞと次世代自動車システムの共同研究について合意 ● シンガポールのデータセンター拠点を拡張 ● 富士通と富士通FIPがデータセンター事業の効率化と品質向上を目指し組織を統合・再編 ● 長野県と人材育成に関するパートナーズ協定を締結</p> <p>4月 ● コーポレートベンチャーファンドを設立 ● 独立役員会議を設置</p> <p>6月 ● サンフランシスコベイエリアにOpen Innovation Gateway を開設</p> <p>7月 ● 商用車プローブデータの分析と道路補修支援のサービスを提供する(株)富士通交通・道路データサービス設立</p> <p>8月 ● 交通・道路分野におけるデータ分析サービスの研究・開発会社(株)富士通TR・REC研究所を設立 ● Fintechでオープンイノベーションを加速「Financial Innovation For Japan」始動 ● 京都大学と学習エビデンスデータを活用した教育・学習実現のための共同研究を開始 ● FSが英国ACT社を買収、交通業界向けビジネス強化</p> <p>9月 ● 米Domo社とビジネス管理プラットフォームで協業</p> <p>10月 ● 富士通グループのネットワークビジネス体制強化(富士通テレコムネットワークス(株)、富士通ワイヤレスシステムズ(株)を富士通に吸収合併)(ネットワーク製品全般の製造を担う新会社富士通テレコムネットワークス(株)を設立)</p>	<p><b>'14年</b></p> <p>9月 ● キング・アブドゥルアズィズ大学にハイパフォーマンス・コンピューティングシステムとサービス・ソリューションを導入</p> <p>10月 ● 児童生徒1人1台情報端末時代に向け、明日の学びプロジェクト開始 ● 「ETERNUS CD10000」を販売開始</p> <p>11月 ● ヒューマンセントリックIoTの取り組み推進 IoTプラットフォームを提供開始 ● 電通とビッグデータを活用し最適なマーケティング施策を立案するフレームワークを開発 ● モノに情報を付与できるLED照明技術の開発に成功 ● SIMフリーに対応したスマートフォン「ARROWS M01」を提供開始</p> <p>12月 ● 地域金融機関向け勘定系システムアウトソーシング「FSPS」を販売開始 ● 燃料電池自動車の普及を支援する水素ステーション情報管理サービスの運用を開始</p> <p><b>'15年</b></p> <p>1月 ● 指輪型ウェアラブルデバイスを開発 ● ウェアラブルセンサー「FEELythm」を販売開始 ● マイナンバー制度対応ソリューションを体系化し提供開始</p> <p>2月 ● タイチュラロンコン大学附属模範小中学校様がタブレット端末による教育支援システムを導入 ● グループ国内外の社内システムを次世代クラウド基盤へ移行開始</p> <p>3月 ● 人とロボットが協調する次世代ものづくりの取り組みを開始 ● ベトナムフエ省で住民参加型防災システムの有効性調査を開始 ● インドネシアジャカルタ特別州でスマートフォンによる市民参加型災害情報共有システムの運用を開始 ● 静岡県磐田市でスマートアグリカルチャー事業の立上げ検討で基本合意</p> <p>4月 ● データセンターのライフサイクルを支援する「データセンターマネジメントソリューション」を提供開始 ● 聴覚障がい者参加型コミュニケーションツール「LiveTalk」を発表</p> <p>5月 ● ソーシャルメディア活用ソリューション「FUJITSU Intelligent Data Service Socialive」を提供開始 ● 企業向けウェアラブル端末「FUJITSU IoT Solution UBIQUITOUSWARE ヘッドマウントディスプレイ」販売開始 ● インテグレーションコンセプト「FUJITSU Knowledge Integration」を提唱 デジタルビジネス・プラットフォームを順次提供開始 ● 虹彩認証機能などを搭載した「ARROWS NX F-04G」を発売 ● IoTデータ活用基盤サービス「FUJITSU Cloud IoT Platform」を提供開始</p> <p>6月 ● パナソニックと高齢者の居住空間向け見守りサービスの共同実証を開始 ● 北海道大学と個々の学生に最適な学びを実現する共同研究を開始</p> <p>7月 ● 大規模医療機関向けWeb型電子カルテシステム「HOPE LifeMark-HX」を販売開始 ● 郡山市と下水道氾濫の兆候を検知する実証実験を開始</p> <p>8月 ● 光伝送システムの新シリーズ「1 FINITY」を開発</p> <p>9月 ● IoTソリューションモデルを米インダストリアル・インターネット・コンソーシアムがテストヘッドとして承認 ● 東京証券取引所様の株式売買システム「Arrowhead」をリニューアル ● デジタルビジネス・プラットフォーム「MetaArc」を提供</p>